

検 査 医 学

科目責任者 小 飼 貴 彦
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

臨床検査医学 Laboratory Medicine は、疾病の診断、病態の解析、治療効果の判定に客観的なデータを提供する学問である。現今、臨床検査は高度に多様化しており、多くの検査は中央化された検査室で大型の自動機器や訓練された技師により実施されている。出されたデータの信頼性を判断し、診断、治療に役立てるのは医師自らの責任である。

この一連の講義は、総論と各論に分けられる。総論では、検査の意義、有用性、効率、基準値、精度管理および検体採取法が述べられ、また、それぞれの検査の検査法、臨床的意義、異常値を示すメカニズムなどが述べられる。

各論では、臨床各科の学習内容を検査の立場から総合的に再構築し、検査医学への理解をより実践的でかつ確固たるものとすることを目標とする。

当該授業科目は卒業認定・学位授与方針の到達目標 基本的技術として修得するものの検査分野に必要不可欠な知識、技能を提供する。

- 1) 基本的な診療技術を修得すると共に、正常と異常とを判断できる能力
- 2) 問題点を総合的に判断して、その解決を図る能力

II. 担当教員

ゲノム診断・臨床検査医学講座、越谷病院臨床検査部、内科学（リウマチ・膠原病）講座、看護学部/大学院看護学研究科、臨床各科、PET センター、その他の教員（詳細は講義計画表参照）

III. 一般学習目標

臨床検査（検体検査および生体検査）の原理と異常値の出るメカニズムを理解する。

臨床検査全般を横断的に見ることにより、疾病と病態を理解する。

IV. 学修の到達目標

検体検査では、基礎医学の知識、特に生理学、生化学、免疫学の知識と臨床検査の知識を関連付けて総合的に理解する。

生体検査では、基礎医学の知識、特に物理学、解剖学の知識と臨床検査の知識を関連付けて総合的に理解する。

検査の実施されるステップを理解しながら、正しい検体の採取および誤った採取で生じる結果の変化を理解する。

臨床検査情報に基づいて診断計画、治療計画を理解する。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	7	月	3	検査の基礎（1）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
2		7	月	4	検査の基礎（2）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
3		7	月	5	自己免疫性疾患の検査	内科学（リウマチ・膠原病） 池 田 啓	1
4		8	火	1	腎機能検査	福島県立医科大学 古 屋 文 彦	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
5	4	8	火	2	遺伝子検査	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
6		8	火	3	感染症の検査（細菌・寄生虫）	埼玉医療センター 本 田 なつ絵	1
7		8	火	4	神経生理検査（脳波・筋電図）	看護学部/大学院看護学研究科 宮 本 雅 之	1
8		8	火	5	遺伝子検査（2）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1
9		10	木	1	感染症の検査（細菌）	ゲノム診断・臨床検査医学 福 島 篤 仁	1
10		10	木	2	感染症の検査（ウイルス）	ゲノム診断・臨床検査医学 福 島 篤 仁	1
11		10	木	3	血液学検査	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦, 臨床検査センター 新 保 敬	1
12		10	木	4	心電図・呼吸機能検査	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦, 臨床検査センター 松 本 浩 子	1
13		10	木	5	検査とチーム医療	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦, 臨床検査センター 湯 石 晃 一	1,2
14		11	金	2	生化学・血清・凝固検査	ゲノム診断・臨床検査医学 伊 藤 裕 佳	1
15		11	金	3	超音波検査	福島県立医科大学 志 村 浩 己	1
16		11	金	4	RCPC（1）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1,3
17		11	金	5	RCPC（2）	ゲノム診断・臨床検査医学 小 飼 貴 彦	1,3

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験，事前確認テスト，出席状況を総合的に判断して評価します。

定期試験（80％），事前確認テストおよび出席状況等（20％）

但し，状況により割合が変わることがあります。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

特定の書籍を教科書としては指定しない。

参考図書を挙げる。

医学書院：標準臨床検査医学，高木 康，山田 俊幸 編集

医学書院：異常値の出るメカニズム，河合 忠 監修，本田 孝行，山田 俊幸 編集

医学書院：検査値を読むトレーニング：ルーチン検査でここまでわかる，本田 孝行 著

医学書院：臨床検査データブック，高久 史磨 監修，黒川 清，春日 雅人，北 村 聖，大西 宏明 編集

その他，各臨床科にて使用されている図書

Ⅷ. 質問への対応方法

随時受け付ける。担当教官に直接連絡すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の正答は、試験後に公開する予定。
質問や問題の適切性に関して学生からのフィードバックを受け付ける。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊を参照すること。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊を参照すること。